

# 『 禅のころ - 曹洞宗 - 』

せいしほさつ  
勢至菩薩

平成28年5月第3週放送

いきお いた ほさつ せいしほさつ じゅうさんぶつ  
勢 いたが至る菩薩と書く 勢至菩薩は、十三仏では九番目、午年の守り本尊とされ、阿弥陀如来の向かって左側にお祀りされます。そのお姿は、観音菩薩に良く似ていますが、願いを叶える功德の水が入っているとされる水瓶(すいびょう)を冠に付けているのが特徴です。

あみだによらい かのん じひ せいし  
阿弥陀如来の右側の観音菩薩が“慈悲”を表しているのに対して、左側の勢至菩薩は“智慧”を象徴しています。

仏様の慈悲の優しさには智慧の力が必要なのでしょう。

せいしほさつ  
勢至菩薩の智慧の力は、その光で全てを照らし出し、人々を迷いの世界から離れさせて救わずにはいられないと言われ、その強い力が特徴です。

せいし  
「勢至」とは、大きな智慧の勢いで覺りに至らしめるという意味です。

非常に大きな力を持っていて、足を踏み下ろすと世界はもとより、大魔王の宮殿が揺れるとされ、大勢至菩薩とも呼ばれます。

あひ せいしほさつ せいしほさつ  
観音菩薩は、慈愛溢れるお姿で私たちを包み込みますが、それに相対して、威厳に満ちたお姿を勢至菩薩に想像されるかも知れません。しかしながら、勢至菩薩はあくまでも優しく慈愛をたたえ、荒々しさは全く感じられないのです。恐らく、その静かな御心の底には、はからずも迷いの世界に落ちてしまった人々を大きな力で救い上げる、とてつもない智慧の力が潜んでいるのでしょう。

今の世の中には、迷いの世界に落ちてもがき、助けを求めている人が少なからずいることでしょう。そうした人に、智慧の光明でお悟りへの道を照らし出し、強い力で手を差し伸べ、正しい道へと導いて差し上げられる人がどれほどいるでしょうか。

人生は、人との出会いが教えとの出会いにもなるのです。

人間一人で迷うものといいますが、ともに歩む者が傍にいて迷っている人を助けるならば、心強い勢至菩薩の智慧の力によって、あたたかい観音菩薩の慈悲にふれることができるのではないのでしょうか。

勢至菩薩のお姿に出会い、一人で迷っている方を救う、智慧の力を学びたいものです。

— 終 —